

資源管理基礎調査（種苗放流）

（要 約）

菊谷尚久・鈴木 亮

目 的

青森県資源管理指針に掲載されている魚種のうち、ウスメバルでは陸奥湾来遊稚魚の動向と稚魚の移動分散について、マダラでは移動分散についての調査を行う。

材料と方法

1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 25 年 5 月から 6 月にかけて、青森市奥内地区及び後潟地区のホタテ養殖施設において、浮玉に海藻（アカモク）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップを設置し、トラップ浮体に蟄集する稚魚を船上からタモ網にて採集した。

2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

当研究所で中間育成した 2 歳魚のウスメバルを用い、平成 25 年 7 月に東通村尻労からダートタグ標識を付して放流した。

3. マダラ（移動分散）

当研究所及び脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚を標識放流用種苗とし、左腹鰭抜去標識により平成 25 年 6 月にむつ市脇野沢から標識放流を実施した。

結 果

1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 25 年度のウスメバル稚魚の採集尾数は 154 千尾であり、昨年の約 4 倍の採集尾数となり、平成 22 年度以降で最も多い採集尾数となった。また、採集したウスメバル稚魚の平均全長は 23.9mm であった。

2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 23 年度に採集したウスメバル稚魚を当研究所内で中間育成した 2 歳魚を用い、平成 25 年 7 月 4 日に 133mm サイズの 2 歳魚 70 尾（内標識魚 67 尾：ダートタグ、黄色アオスイ 226～252・ピンクアオスイ 951～1000）を尻労前沖に放流した。

3. マダラ（移動分散）

当研究所及び脇野沢村漁協が種苗生産したマダラ稚魚を標識放流用種苗とし、平成 25 年 6 月 19、20、22 日に脇野沢より 9,900 尾を標識放流した。